



亀中だより

No.35 令和3年12月1日 文責:岡田



防災学習は人権学習として…

期末テスト最終日の11月26日、テスト後に生徒集会 (zoom) と避難訓練を行いました。1 学期に用意していた避難訓練は度重なる雨により中止を余儀なくされ、2 学期になっても緊急事態宣言等の影響もあって今年度初めての実施となりました。今回はあらかじめ予告することのない突然の放送から始まる避難訓練でしたが、みんなが真剣に、そして冷静に取り組んでくれたことに安堵しました。

生徒数 600 人を超える学校規模ですが、グラウンドへの移動、整列、点呼をおよそ 6 分の間に終えることができました。



訓練後の講評から…

亀山中での避難訓練として、この時間で集まることができるのは十分ではないかと考えます。津波等のさらなる災害の可能性でもあれば、二次非難もあり得るのですが、本校の所在地からすれば、これ以上の速さを求めるより、行動や点呼等の「正確性」と「人への配慮」が大切であると思います。点呼・人数確認はすなわち安否確認です。もし今ここにいない人がいるならば、そこからどのような行動が必要なのかを、正しく判断して、行動に移さなくてはなりません。そのためにはより「正確」な状況把握が求められます。

それとともに避難時には、すべての人への配慮をしなければなりません。学校には 600 人以上の生徒と最大時には 80 人を超える職員がいます。中には体調不良やケガ、障がい等によって、動きづらさ、見えにくさ、聞きにくさなどのある人が近くにいる場合もあります。こうした人とともに、自分の安全を確保しつつ、冷静に判断して、避難や待機をする必要があります。中学生ともなれば、時には「被災者支援」に回らなければならないこともあるでしょう。一人ひとりがそうした行動力を持ってほしいものです。

自分の生き方を学ぶ 人とのかかわりを学ぶ 判断し、行動する

避難訓練を含む「防災の学習」は“人権学習”といっても過言ではありません。災害時あるいは災害後の行動を考えることは、自分の生き方を考えることであり、人とのかかわりを考えること、そしてその場での「判断」と「行動」ができるようになることです。高齢者や障害者など、災害時の避難行動や避難所などでの生活が困難な方を「避難行動要支援者」と呼びます。中学生のみなさんが、こうした方々の“支援者”として活躍して欲しいのです。

屋外で 600 人のみなさんに届くように地声で話すことになったので、どうやら声がとても大きく、口調も強くなったようです。生徒のみなさんには聞きづらく、乱暴に聞こえたかもしれません。大切なことをお伝えしたかったので、力が入ってしまったようです。別に怒っていたわけではありません!ごめんなさい。(…)